

# 令和8年度 公立図書館と学校との合同研修 実施要項

大阪府立中央図書館 協力振興課

1. 目的 公立図書館職員と司書教諭および学校図書館担当職員等との合同研修を実施することで、連携を強化し、地域における図書館と学校の役割について考え、地域における子ども読書活動を推進する。
2. 参加対象 大阪府内の公立図書館職員、司書教諭、学校図書館担当職員、その他教員等
3. 日程 【第1回】令和8年7月17日(金)9時～9月30日(水)17時【インターネット配信】  
【第2回】令和8年7月24日(金)13時30分～16時  
【第3回】令和8年8月20日(木)9時～9月30日(水)17時【インターネット配信】  
※第2回の講演内容をビデオ撮影し、第3回としてインターネット配信いたします。  
第1回の研修は「授業目的公衆送信補償金制度」に基づき、配信いたします。
4. 会場 【第2回】大阪府立中央図書館 2階 大会議室
5. 申込方法 大阪府行政オンラインシステムからお申込みください。

<https://lgpos.task-asp.net/cu/270008/ea/residents/procedures/apply/a9c5f35b-6b81-41fb-a423-ebd8ffb89f5c/start>

6. 定員 【第1回】 230名(先着順)  
【第2回】 50名  
【第3回】 設けない



7. 申込締切 令和8年7月3日(金)17時00分

※第2回の申込みが定員を超過した場合、公立図書館と学校、それぞれの所属種別で定員の半分の枠数で抽選を行います。抽選に外れた方については、もう一方の種別の枠数に空きがあれば再度抽選を行います。研修への参加可否については、7月10日(金)までにメールでお知らせいたします。

8. 遵守事項 研修動画の視聴はお申込みになられた方に限ります。  
研修動画に関するメール(URL等を記載)を第三者へ転送しないでください。  
ダウンロード等の違法行為は固くお断りします。

※動画の視聴費用：無料(ただし通信にかかる費用は申込者負担となります)

※障がい等の状況により、配慮が必要な方は申込時にお知らせください。

## 9. 諸連絡

- ・第2回の集合研修の際、別会場で「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界」として支援資料の展示も行う予定です。第3回の遠隔研修では、集合研修の内容を録画・編集した動画を配信します。準備状況次第で8月20日(木)より早く配信可能となる場合があります。その際は、申込者に別途お知らせいたします。

10. 内 容

日時		テーマ・講師
<b>【第1回】</b> <b>遠隔研修</b> 7月17日(金)9時～9月30日(水)17時		「ミニ新刊紹介」 講師：瀧川光治氏 (大阪総合保育大学教授・当館国際児童文学館専門協力員) 当館国際児童文学館 職員、当館こども資料室 職員
<b>【内容】</b> 2025年に出版された子どもの本について、絵本・読物・知識の3つのジャンルに分けた本の紹介をします。子どもの本の知識を深め、子どもの本の情報を得る内容となっています。 6月1日(月)から6月30日(火)まで配信される当館 国際児童文学館主催のインターネット配信「講演と新刊紹介 2025年に出版された子どもの本」から新刊紹介の内容のみを再公開するものです。		
日時		テーマ・講師
<b>【第2回】</b> <b>集合研修</b> 7月24日(金) 13時30分～16時	<b>【第3回】</b> <b>遠隔研修</b> 8月20日(木)9時 ～9月30日(水)17時	<b>【第一部】</b> 「学校図書館の協働的ネットワーク」—箕面市の学校図書館における、<つなぐ・つながる> 講師：右田ユミ氏(箕面市立彩都の丘学園 学校司書) /古田真実氏(箕面市立南小学校 学校司書) <b>【第二部】</b> 「学校図書館の【固定観念】をときほぐす」 講師：石山貴裕氏(大阪府立泉陽高等学校 教諭)
<b>【内容】</b> 大阪府内の公立学校で先進的な実践に取り組まれてきた小・中・高の3人の先生方のそれぞれの実践に基づく研修内容です。それぞれの詳細は以下のとおりです。  <b>【第一部】</b> ：1992年度から、箕面市の学校図書館に学校図書館司書の配置が始まりました。どこの学校でもまず、学校の中にある図書館としての機能を果たすために「学校図書館は利用者の見たい・知りたい・読みたいにこたえます」という運営・活動理念を掲げ、予約制度やレファレンスサービスを導入しました。ところが、自校の学校図書館だけでは、とうてい満足いくサービスができないことに直面しました。また図書館を活用した授業を充実させるためには、司書と授業者との協働をいかに展開するかが課題になりました。 そのような問題意識を持ちつつ、「どこの学校でも同じサービスを」を念頭に、箕面の学校図書館がよりよいサービス、よりよい活動を行うために構築・拡大してきたネットワーク(学校図書館司書どうし、学校図書館と市立図書館、司書と授業者など)についてお話しします。  <b>【第二部】</b> ：図書館では静かにしなさい、図書館に来たら1冊は必ず借りなさい、図書館で借りた本は最後まで読みなさい、図書館ではマンガばかりでなく活字の本を読みなさい、話題の本ばかりでなくて名作をもっと読みなさい、探究の調べ物がなければ早く自分の教室に帰りなさい、等々。学校図書館のガイダンスや授業利用の際にこのような言葉が飛び交うことは、現場にいる者ならば容易にピンとくるだろう。しかし、これらの言葉は「学校図書館において」当たり前なことなのだろうか。これらの言葉の中には、公共図書館とのマナーの混同が生じていたり、いつの間にか自然発生した「妙なマナー」が隠れたりしているのではないかと、ということ、自分自身が図書館運営に関わる中で実感するようになってきた。子どもの居場所としての「学校図書館」はこれからどのようにデザインされていくべきなのか、ひとつひとつ固定観念をときほぐしながら、「にぎわい」をキーワードとして新しい学校図書館のあり方を模索したい。		
※第2回研修後に地下書庫見学(20名まで)を予定しています。定員を超過した場合は、抽選により参加者を決定します。地下書庫見学への参加可否については、7月17日(金)までにメールでお知らせいたします。		